

まちの史跡めぐり

204

猿田彦大神と庚申尊天(4)

町文化財専門委員
石瀧 豊美

須恵町の猿田彦探しもそろそろ大詰めになりました。まだまだどこかにひっそりと息づいているのかもしれないが、路地裏や田んぼに囲まれた場所となると、通りすがりに見つけるといっわけにもいきません。案外、地元の人なら誰でも知っていて、身近に接している猿田彦や庚申尊天がほかにもあるのかもしれない。今のところ、最後に報告しなければならぬのは、車が行き来する通りから一歩奥まったところにある、上須恵の猿田彦です。

昔、須恵第一小学校の児童が校区の道祖神などを調査したことがあり、その地図に書かれているのを記憶していたので、台風14号が通り過ぎるのを待って、さわやかな青空の下、現地を訪ねました。上須恵戸頃ふれあい会館から皿山公園に向かって歩き、最初の路地を右に入ります。皿山川にかかる戸頃橋のたもとに目的の石碑がありました。写真①でガードレールの先に碑の側面(向かって左側)が見えます。

ここから上須恵須賀神社へと向かいました。石段をまっすぐ上ると正面に拝殿があります。今日の目的はその右側にある恵比寿神社です(写真②)。鳥居の先にあるのは恵比寿像を線で描いた「線刻恵比寿」と言われるものです(写真④)。

線刻恵比寿と言いましたが、現在では碑の表面が苔におおわれていて絵柄はよくわかりません。実は同じような石碑が太宰府天満宮の西側、連歌屋方面から境内に入ったところにあります(写真⑤)。線刻の絵は上須恵のものと同様で同じ図柄と言ってよいでしょう(写真⑥)。筑紫野市山家に恵比寿石像(市有形文化財)があって、江戸時代初期、慶長16年(1611年)に建立されたものです。その解説によると「狩衣を装い、折り曲がる立烏帽子をかぶっています。鯛は横長で表現され、尾の部

分に紋が彫られています。」上須恵と太宰府天満宮の恵比寿は、頭の烏帽子がやわらかく、手前に折れ曲がっているように見えます。右手には釣り竿を立てています。左手に鯛は見えないので、足元に横に描かれているのでは想像しますが(左側に尾びれが見えるようなのですが)、石碑からはつきりしません。

府天満宮のすぐ近く(県道沿い)にも線刻恵比寿があります。農村部の猿田彦大神、庚申尊天が五穀豊穡を祈願したの

に対し、恵比寿信仰は主に漁民や商人の信仰の対象とされていてよいでしょう。上須恵に恵比寿講があったとすれば、江

戸時代の眼科医を中心に、上須恵が一種の宿場町のような形で発展したと関係がありそうです。上須恵の線刻恵

比寿は明治になって建てられたものですが、恵比寿信仰は江戸時代から続いていたこと

